

岡山県海域における簡易なガラモ場再生手法の検討

豊かで、きれいな海として再生するために

【背景・目的】

- ・藻場は魚介類の発生、生息場所としての機能を有するほか、二酸化炭素の吸収源として注目されていますが、沿岸開発や、環境変化などにより減少してきました。
- ・アマモ場は水質環境の改善や再生活動により回復傾向にありますが、ガラモ場は回復傾向が見えず(図1)、浅場の再生手法も確立されていません。そこで、県民や漁業関係者が実施できる簡易な再生手法を検討しました。

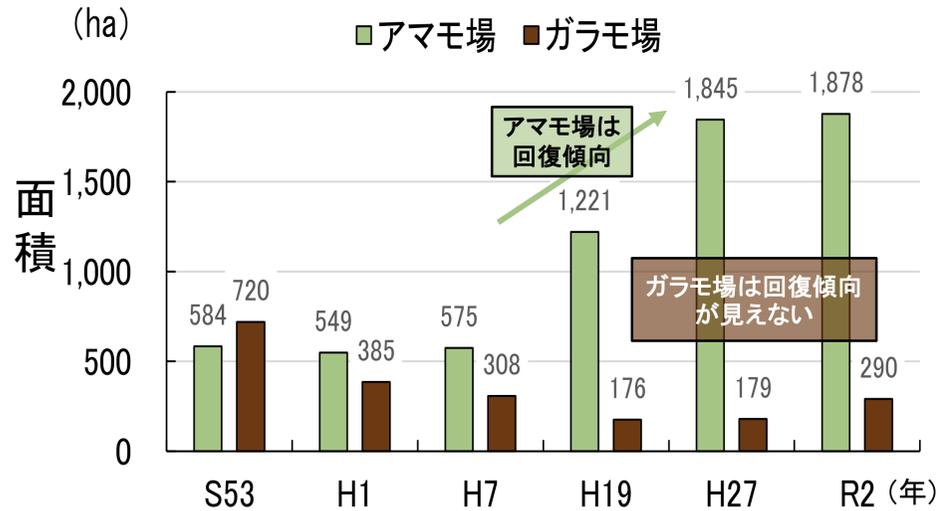


図1 岡山県の藻場面積の推移 (環境省「自然環境保全基礎調査」、県調査による)

【成果の内容】

1. ガラモ(アカモク)人工採苗による増殖基質の検討

令和4年3月に、採取したガラモ(アカモク)の流れ藻から、成熟して生殖器床に卵が付着したものを選別し、人工採苗に用いました(図2)。室内培養によりアカモクに適した増殖基質を検討したところ、碎石、コンクリートプレート、トリカルネットのいずれの基質にも良好に着生し、7月に藻長約10mmまで生育しました(図3)。

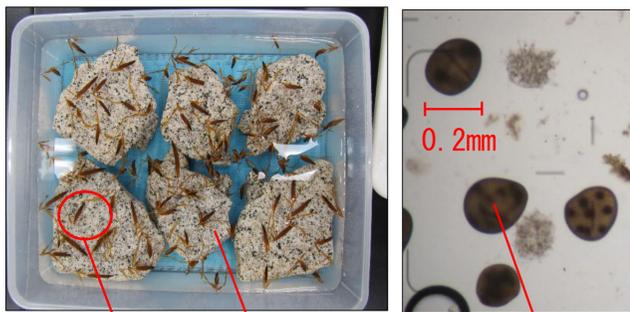


図2 基質への人工採苗



図3 各基質で生育したアカモク

2. 野外での移植試験

令和5年9月に、基質へ着生させたアカモクを水深を変えて移植し、生育状況を確認しました(図4)。アカモクはD.L. (最低水面)-0.5mの地点で生育し、D.L. 0と-1.5mでは生育しませんでした(図5、6)。少しの水深の違いによって生じる光や浮泥堆積量等の環境の差が生育に影響を与える可能性があり、今後は詳細な環境のデータを蓄積し、これらの指標を基質投入適地の選定へ活用したいと考えています。



図4 調査場所

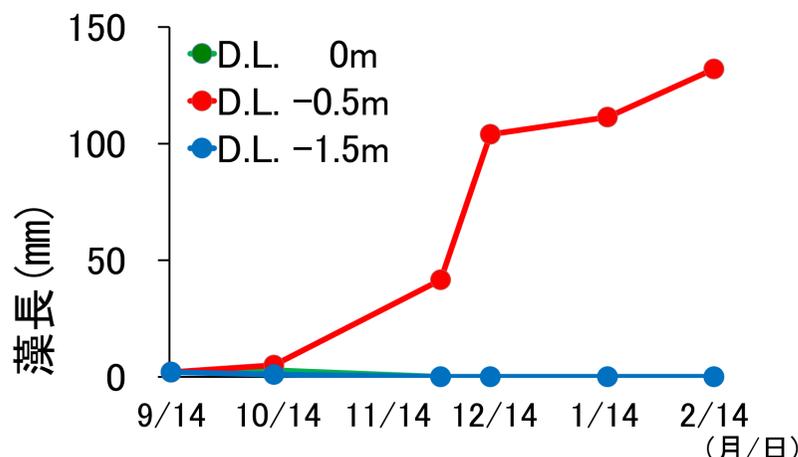


図5 アカモク藻長の推移

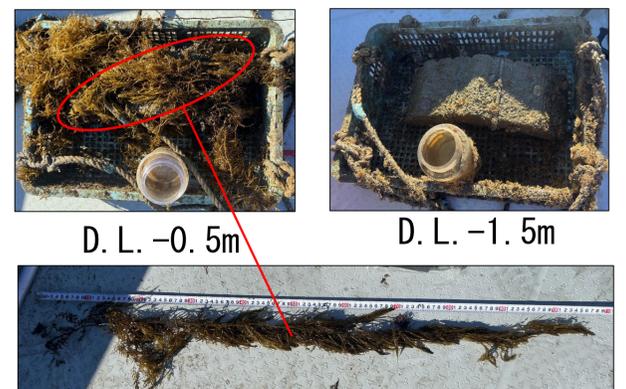


図6 アカモク生育状況

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター 水産研究所
 瀬戸内市牛窓町鹿忍6641-6 TEL. 0869-34-3074